

TOWN

延岡のヤブツバキ群紹介

一般社団法人 日本ツバキ協会 会報誌

江藤さん（延岡城山ヤブツバキを）が寄稿

一般社団法人日本ツバキ協会（東京都、箱田直紀会長）の会報誌「ジャパンカメラ」の116号で、延岡市の城山のヤブツバキ群が大きく紹介された。会報誌はB5判16ページ、オールカラー。延岡の固有種、その名も「延岡」の花一輪をクローズアップした写真が表紙の半分以上を占

め、6ページには、延岡城山ヤブツバキを築しむ会代表世話人、江藤奈保さん（87）＝延岡市高千穂通在住＝の寄稿が掲載されている。城山のヤブツバキ群は1983年、永友昭夫さん（故人）によって初めて専門的な調査がされ、109種あることが延岡市に報告さ

れた。このうち「延岡」は、「色分け花図鑑・椿つばき」などツバキに関する多数の著書のある桐野秋豊さん（故人）が同年に命名した。桐野さんは富山県出身で、当時は東京都八王子市に住み、日本ツバキ協会理事。のちに会長を務めた。城山にツバキを見に来た際、この花を気に入り、この

う。持ち帰った一枝は八王子市の自宅の庭で根付き、江藤さんによると、今では20以上の高さになっているそうだ。また当時、種苗業者によって苗木が育成されて売り出され、延岡市の女性団体「国際ソロチミスト延岡」は99年、設立20周年式典の記念品として、九州各地から訪れた出席者に配ったという。出席者の自宅に「延岡」が今も植えられている可能性もある。

Japan Camellia

No.116 2022/5

「第32回全国椿サミット大船渡大会」への協力御礼について

- | | |
|------------------------|----|
| ・延岡市の緑とグリーンセンターの椿 | 11 |
| ・「育てる、活かす、楽しむ 最新椿百科」を | 12 |
| ・「椿と城山～延岡城山ヤブツバキ群」 | 13 |
| ・2021年度事業報告、収支報告 | 14 |
| ・2021年度 貸借対照表、2022年度予算 | 15 |
| ・新花写真コンテスト優勝品種の報告 | 16 |
| ・比留木忠治さんの椿の研究 | 10 |



「延岡」の写真が大きく表紙を彩る「ジャパンカメラ」116号

椿と城山

～延岡城山ヤブツバキ群～

江藤奈保

椿の美しさに惹かれるようになったのは、いつの日であったのでしょうか。遠く小学生の頃、宮崎県延岡市の中心部にある城山の周辺に育った子どもたちは、春のぬくもりを感じ、3月になると、落ちた椿の花を無心に拾って糸を通して首飾りにしたり、花の裏に口をつけ甘い汁を吸ったりしました。幼い日遊びの中で椿の花でありました。

20歳を過ぎた頃の東京の生活。それは青春であるがゆえの厳しい試験に耐える日々でした（※）。そのような生活の中で週一度のお花のお稽古は安らぎのひ

ときどきでした。ある日、花材の椿に对应した時、深い緑の葉に鮮やかな赤が、静かな美しさの中に力強さを秘め、私の心に切々と迫ったのを鮮明に思い出します。あの頃、喧騒の中で孤独に耐えていた私は、椿が葉こもりで静かに自分を磨いた美しさに心を惹かれ、命いっぱい咲く花に心が和みました。その安らぎは、ふるさとの城山の椿とともに幼い日々がよみがえり、城山のぬくもりを懐かし

く感じておりました。延岡市は、大分県との県境に位置し、九州山地を背に、清流五ヶ瀬川が流れ、東は太平

洋に面しています。城山ヤブツバキ群は、延岡市の中心部にある城山公園にあり、ここにはかつて延岡城がありました。城山のヤブツバキ群は以前から知られていましたが、1983（昭和58）年、当時、東日杵農林振興局に勤務していた永友昭夫氏によって初めて専門的な調査が行われ、109個体のヤブツバキが延岡市に報告されました。

約3300本が自生し、花の色も白、紅、淡桃、桃、紫、濃紅などの単色や、絞り、覆輪、斑入りなどの複色と変化に富んでいること。白色の椿が非常に多く、その比率は3割を優に超えていること。我が目を疑うばかりの椿花の多彩な変異に接した感動は、今もいや終生忘れることは

できません」と報告されています。その中の名品が、一重の淡い桃色で「清雅端正の花」と形容された「延岡」です。1983年に日本ツバキ協会名誉会長の故・桐野秋豊氏が命名発表されました。

この貴重な延岡市の財産を多くの方々に鑑賞していただきたく、1989年11月に「延岡城山ヤブツバキを築しむ会」が発足し、1990年に第1回築しむ会を開き、今年で32回を迎えました。1996年に当会で109個体のヤブツバキから選んで命名した「内藤」「牧水」「亀井」があり

ます。「内藤」は延岡藩最後の藩主であります内藤氏にちなんで命名。「牧水」は歌人若山牧水が青春時代を延岡で過ごしたことちなんで命名。「亀井」は延

岡城が亀井城と呼ばれていたことで命名しました。今後も優秀な花が出現する可能性が高く、まさにヤブツバキ群がある城山は「宝の山」といっても過言ではないといわれています。

今、城山はヤブツバキに代表される自然豊かな憩いの場であり、400年の時の流れの中で天下一新能が行われる、延岡に脈々と流れる薫り高い文化を象徴する歴史的空間となっており、さまざまな方々が力を合わせ、延岡の自然・歴史・文化を誇り、大切に守り育ててきた成果だと考えます。これから延岡市民の大切な財産であり続けてほしいと願っております。

※編集部注：江藤さんは薬剤師